いしかわ労福協

第 635 号　2020年12月25日
発　行　所　石川県労働者福祉協議会
発行責任者　西田　満明
編　集　人　上野　貞彦
〒920-0024　金沢市西念3丁目3番5号
電話（076）231-1737
FAX（076）231-1731
http://www.ishikawa-rofukukyo.jp
info@ishikawa-rofukukyo.jp
毎月1回 25日発行

2021自治体要請を終える

石川労福協は、12 月 17 日（木）谷本正憲石川県知事を訪ね石川県の次年度予算編成に向けた政策等の要請を行った。

西田満明理事長は、谷本県知事に要請書を手交したのち「新型コロナウイルス感染症の拡大により、小中学校が休校したことで働きに出られなかったり、勤務先の休業や事業閉鎖などにより雇用を失ったり収入が激減している方が、特にひとり親に多く、生活に支障を来している。また、アルバイト収入をあてにして学業に励む学生も同様に生活苦や学校中退の不安を抱きながら生活している現状において、３年前に立ち上げたフードバンク事業により、食材を提供するフードパントリーが取り組まれており、正に我々が目指す共助の拡大につながっている。コロナにより国全体が疲弊する中にあって、身を守るステイホームも重要だが、コロナ禍での経済活動の復旧・維持のためにもコロナ対策をしつつ活動実施に取り組んでいる。今要請では、例年の要望に加えて、コロナ禍において大きな影響を受けられている人たちの支援策充実に向けた要望を付加している。市民生活の維持のためにも要請事項に対する理解と実現への協力を頂きたい。」と挨拶した。

その後、渡邊雅人専務理事が、具体な要請事項の主だった点の説明に続き、谷本県知事は「コロナ感染の県内状況は、感染経路不明者の増加やクラスターなどで、感染者数が拡大傾向にあるが、県民及び地域経済の支えが重要であり、補正予算で充実を図りたい。また、フードバンクによるフードパントリー活動の拡大は、顕在化しない生活が困窮する方への支援につながり有益な活動の一つでもある。」などと要請に対しての意見を述べた。ほか、石川県勤労者共済生協が石川県に 60 周年記念として寄贈した寄付金への感謝の意を述べられた。

2021 年度自治体要請は、石川県知事への要請を最後に、県内すべての自治体への要請行動を終了した。

要請内容の重要性を理解され、その多くが来年度の政策に反映することを期待する。

第５回理事会「2021年度活動方針(案)を提示、コロナ禍において前進できる運動へ」

労福協は、12 月 15 日(火)金沢市武蔵町のＩＴビジネスプラザ武蔵において、第５回理事会を開催した。

理事会は、役員全員が出席し、西田満明理事長が「来年度の自治体の施策等に対する自治体要請は､残すところ石川県知事のみとなったが､新型コロナウイルス感染症対応をしつつ、県内すべての市町を訪ね要請を行ってきた。どの市町でも市民生活や経済活動を支えるために、それぞれ工夫をしながら支援策に取り組んでいる状況を知ることができた。我々も自らの生活を支えるためにも可能な限り経済活動への取組みを積極的に進めている。連合石川と合同で開催する 2021 新春の集いについても、感染対策を怠りなく例年と同様に開催を予定しているが、年の瀬を前に感染が拡大しつつある。状況を注視しつつ開催に向けて検討する。コロナ禍ではあるが、対策を十分に行いながら活動の実施を進めていきたい。」と冒頭あいさつをした。

渡邊雅人専務理事が、前回理事会以降の取組みの報告として、昨年まで集会型で開催していた退職前セミナーを Web 上で視聴する形式で配信開始したことなどを中心に報告したのに続き、各会員団体からも業況報告がされた。

協議事項では、2021 年度活動方針(案)が提起されたほか、コロナ禍において生活に窮する状況に陥った方への支援策として石川県社会福祉協議会や司法書士、社会保険労務士などの協力で「年末緊急！なんでも生活応援相談会」を 12 月 19 日(土)に開催することなどが提案され、いずれも満場一致で承認された。

また、第 44 回研究集会、第 17 回ライフ・サポートセンター代表者会議を集会型とリモート型を併用する方法で開催することも決定した。なお、研究集会は講師との調整もあるが２月上旬に、ライフ・サポートセンター代表者会議は３月 11 日(木)に開催を予定している。

第21回ライフ･サポートセンター事務担当者研修会

石川労福協ライフ・サポートセンターは、12 月 15 日(火)フレンドパーク石川において、第 21 回ライフ・サポートセンター事務担当者研修会を開催した。

９地域のライフ・サポートセンター事務担当者及び主催者事務局が参加し、2021 年度予算案の作成、2020 年度会計の決算スケジュール、経理処理における注意点など年度末に向けての事務処理について、事務局から提案・説明をした。質疑では、参加者から日常の経理処理・次年度予算の編成と決算スケジュール等についての意見・要望等が出された。

また、毎年実施している事業団体チラシの配布と事業団体支援活動についても事務局から要請し、各地域とも活動の確認をいただいた。

これからの行事予定

（12 月 25 日現在）

開催日	曜日	行　事	会　場
１月５日	火	2021 新春の集い	ANA クラウンプラザホテル金沢
２３日	土	連合能登地協、輪島・穴水＆珠洲・能登 LSC 合同 新春の集い	こうしゅうえん
２９日	金	連合かなざわ地協、金沢 LSC 合同　New Year 旗開き	ＡＮＡホリディイン金沢スカイ
〃	〃	連合七鹿・羽咋地協、七尾・鹿島＆羽咋ＬＳＣ合同　新春の集い	のと楽
２月１８日	木	労福協 第６回三役会議	フレンドパーク石川
２６日	金	労福協 第６回理事会	〃

食とみどり、水を守るいしかわネットワーク定期総会

連合石川、石川労福協らで構成する「食とみどり、水を守るいしかわネットワーク」は、12月23日(水)フレンドパーク石川において第15回定期総会を開催した。

定期総会には、協力団体の代表者や役員等25名が参加し、西田満明代表(連合石川会長・石川労福協理事長)が「今年度はコロナにより、ふれあい林業以外の活動は中止せざるを得なかったが、水田耕作者の協力で支援米を収穫することができ、アフリカマリ共和国と県内でも食べることに窮している方への支援として、いしかわフードバンク・ネットに寄贈した。来年度は、子どもたちも参加できるようコロナ対策を万全にして活動を展開したいので、ご協力を頂きたい。」と挨拶した。

来賓として、竹内竜也立憲民主党石川県総支部連合会常任幹事、盛本芳久社会民主党石川県連合会代表が挨拶に立った。

続いて、2020年度の活動や会計・監査の報告に続き、2021年度の活動方針･予算などを承認し、コロナ禍における食とみどり、水を守るいしかわネットワークの2021年のスタートを切った。

年末緊急！なんでも生活応援相談会

12月19日(土)石川労福協は、コロナ禍における年の瀬を控え、日々の生活に窮している方の増加が予想されることから、石川県社会福祉協議会､喜成司法書士､社会保険労務士法人ウィズ、連合石川労働相談、北陸労働金庫、こくみん共済coop石川推進本部の協力を得て、「年末緊急！なんでも生活応援相談会」をフレンドパーク石川にて開催した。

当日、飛び込みで相談を受けられるよう事前予約を受けず待機し、また、今日食べる食料に窮する方への支援として、いしかわフードバンク・ネットの協力で、米・インスタント麺・切り餅を準備して対応した。

相談件数は、4件と思いのほか少なく、また、生活に窮した方の相談は無かったものの、働くこと、ローン返済、相続などの法律、共済制度に対する相談者が来所し、協力いただいた相談員による個別面談で対応した。

相談者は、相談内容の解決に向けたアドバイスを受けることができたものと見受けられる様子で会場を後にし、幾らかでもの協力ができたと感じられた。

コロナ禍とは言え、生活の根本となる働くことや生活のことでの悩みが少しでも解消できればと考えています。労福協では、「福祉なんでも相談窓口」として、平日午前10時から午後4時までフリーダイヤルで相談を受け付け、必要となれば専門家へ繋ぎ悩み解消の入り口とした活動を行っていますので、活用されてみては如何でしょうか。

第91回石川県統一メーデー第３回実行委員会

連合石川、石川労福協などで構成する実行員会は、第91回メーデー関連行事の終了をもって12月3日(木)に会合をもった。

西田満明実行委員長(連合石川会長・労福協理事長)が、「新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの人を集めてのメーデー開催がやむを得ず開催できなくなったが、メーデーを止めることは出来ないとの思いで、Ｗｅｂを活用しての開催・発信とした。当時は、手探りの状況であったが、コロナ禍において感染予防対策を講じれば開催可能であることから、来年は、是非ともこれまで通りの開催を進めていく。また、５月１日が休日であることから家族参加型での実施を描いており忌憚のない意見を頂きたい。」と挨拶に続き、91回の取組み状況が報告され、全体で確認した。

また、来年の開催日は５月１日を軸としていくが、土曜日にあたることから、家族参加型への是非、その場合のイベントのあり方について議論が交わされた。

次回メーデーの開催に向けて、来年２月に具体化に向けて検討する会合を設けることとして、第91回石川県統一メーデー実行委員会を閉会した。

勤文協

『第70回勤美展』開催

石川県勤労者文化協会と石川県が主催する「第70回石川県勤労者美術展」が12月2日(水)から12月6日(日)まで、金沢21世紀美術館にて開催された。今回はコロナ禍での開催となり、70回という大きな節目の年にも関わらず、開会式、表彰式の規模を縮小しての開催となった。しかしながら出品者の創作意欲はむしろ例年以上であり、日本画27点、洋画83点、書道59点、写真90点、手工芸51点の合計310点は昨年の214点を大きく上回り、来場者数も外出自粛が浸透する悪条件の中で、例年並みか例年以上を記録した。各部門の厚生労働大臣賞、県知事賞、県議会議長賞受賞15作品を展示した県庁特別展を含め70年の歴史を飾るに相応しい美術展となった。

開会を宣言する大樋陶冶斎会長

会長・顧問によるテープカット

表彰式の挨拶をする渡邊雅人副会長

日本画

厚生労働大臣賞
『果菜』
中橋 溥介〈小松市〉

勤文協会長賞
『夢現』
中村 衣里〈金沢市〉

石川県知事賞
『七つの桐采』
末友 恵子〈能美市〉

金沢市長賞
『椿』
吉本 有里〈白山市〉

書　道

厚生労働大臣賞
『木村雨山の「私の青春」より』
宇野 緋紗子〈金沢市〉

勤文協会長賞
『後鳥羽院歌』
寺西 香月〈内灘町〉

石川県知事賞
『立原道造の詩』
長内 礼子〈金沢市〉

金沢市長賞
『一樹の陰』
木谷 司〈金沢市〉

写　真

厚生労働大臣賞
『夕映えの白馬連峰』
宮下 雅人〈能美市〉

勤文協会長賞
『至福の時』
橋本 良信〈金沢市〉

石川県知事賞
『愛し子』
竹田 喜代子〈志賀町〉

金沢市長賞
『暁光』
村田 秀治〈金沢市〉

手工芸

厚生労働大臣賞
『受容』
細川 博史〈金沢市〉

勤文協会長賞
『夢』
丸山 かはる〈金沢市〉

石川県知事賞
『染額「木蓮」』
今村 茂子〈金沢市〉

金沢市長賞
『ロータス（蓮）』
南 澄子〈金沢市〉

洋　画

厚生労働大臣賞
『都会の操車場』
西村　光〈金沢市〉

勤文協会長賞
『千古の杜』
山尾　俊子〈金沢市〉

石川県知事賞
『太夫』
源田　貴子〈津幡町〉

金沢市長賞
『秋色映す』
髙橋　孝一〈金沢市〉